

## 2017年度 項目別の自己評価表（専門学校デジタルアーツ仙台）

### 1. 学校の教育目標

専門学校デジタルアーツ仙台は学校教育法に基づき、IT、音楽、音響、声優、ゲーム、CG、まんが・アニメ、デザインの各分野における専門的な知識と技術はもとより、職業人として必要なマナーや教養を身につけ、国家並びに地域社会に寄与できる人材の育成を行う。

- ① 実学実践の中から自己学習能力を身につけた人材の育成を目指します。
- ② 社会人としてのマナーを身につけた人間性豊かな人材の育成を目指します。
- ③ 社会に貢献できるリーダーシップを持った人材の育成を目指します。

専門学校デジタルアーツ仙台の教育目標は、CAREEA COLLEGE です。

CAREEA COLLEGE = 「専門力」+「人間力」

CAREEA COLLEGE とは、深い専門知識を学ぶ「専門力=キャリア (CAREEA)」としなやかな感性、豊かな人間性を学ぶ「人間力=カレッジ (COLLEGE)」です。社会が求める専門教育（知識、技能）の習得はもちろんのこと豊かな「教養」と「コミュニケーション能力」を備えた魅力ある人間教育にあります。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

学生満足度のアップを目指し、丁寧な指導をベースに「出席率の向上」、「除退率の減少」、「就職率の向上」、「資格取得率の向上」を図ります。また、企業（業界）の意見を取り入れたカリキュラム検討を行い社会が求める人材育成を実践して行きます。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
a. 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	4 (3) 2 1
b. 学校における職業教育の特色は何か	(4) 3 2 1
c. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 (3) 2 1
d. 学校の理念、目的、人材育成像、特色、将来構想などが学生保護者等に周知されているか	4 (3) 2 1
e. 各科の教育目標、人材育成像は、科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 (3) 2 1

#### ① 状況

- a. 教育理念・目的については4月のオリエンテーション時に配布する学生生活マニュアルに明記されており入学時に説明している。また、教育目標・人材育成像についてはホームページで公開している。
- b. 企業と連携し社会で通用する実践力を養う事を特色としている。また、プロ育成の科（ミュージックアーティスト、声優科、まんがアニメ科）についてもプロダクションや出版社などと連携と撮っている。
- c. 今後、社会で必要とされる人材を育成する科の新規設置やカリキュラムの変更を臨機応変に実施し、科、コースの見直しを検討している。
- d. 学生はホームルームや通常授業で何度も説明しているので周知徹底しているが保護者には、要望がある場合に説明している。また、ホームページにも掲載し情報公開している。その他、オープンキャンパス時において保護者説明会開催時に説明している。
- e. 各業界からの意見やアドバイスを参考にニーズを把握している。

#### ② 課題・改善方策

- a. 教育理念については、ホームページで公開し情報公開している。入学時のみの説明では、十分に主旨理解できておらず、通常授業やホームルーム等で再説明が必要である。尚、説明については、夏休み前までに周知徹底したい。
- b. 各科の特長に合わせた企業連携や取り組み方が必要である。どの科も年間計画を見直し企業連携の取り組みや現場実習などの方法に対し見直しが必要である。
- c. 社会で必要とされている最新の技術などをどのように教育プログラムに取り入れていくのかを企業と連携しながら進めていく必要がある。
- d. 保護者には入学時に学校の理念、教育目標、学校の特色などを郵送し周知を図る。

e. 広くニーズを把握するため、教育関連団体以外の外部団体が主催する研修会及び情報交換会に教員が参加する機会を増やしたい。その他、企業やプロダクションとの連携の強化が必要である。

## (2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
b. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
c. 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
d. 人事、給与に関する制度は整備されているか	4	③	2	1
e. 教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4	③	2	1
f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
g. 教育活動に対する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

### ① 状況

- a. 月次を実施される経営戦略会議にて職員を代表して教頭が出席し運営方針が策定される。
- b. 運営方針に沿った事業計画を教頭から説明があり職員会議で周知し実行している。
- c. 運営組織や意思決定の権限などは学園規定集により明記されている。
- d. 人事、給与に関する制度は学園規定集により明記されている。
- e. 教務、財務などの意思決定システムは学園規定集により明記されている。
- f. コンプライアンス体制に関しては学園規定集により明記されている。
- g. 教育活動についてはパンフレット、ホームページで公開している。
- h. 情報システムが旧システムのため、不具合が発生する可能性がある。

### ② 課題・改善方策

- a b. 必要に応じて、経営戦略会議の議事録を教員に閲覧可能にし、周知徹底している。
- c d e f g. 特になし。
- h. IT委員会が学園全体のシステムの効率化を図っている。しかし、学園全体のシステムが老朽化しており、今後、改善が必要である。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
b. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
c. 科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
e. 関連分野の企業関連施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか	4	③	2	1
f. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
g. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
h. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
i. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
j. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
k. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる用件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
l. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4	③	2	1
m. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
n. 職員の能力開発のための研修が行われているか	4	③	2	1

① 状況

a b c. 科単位に設定された人材育成目標をもとにシラバスに沿って業界のニーズにあった教育を実施している。学習時間に関してはカリキュラム表に明記されている。

d. 教員間でのミーティングや企業訪問などで業界の動向を把握し教育内容や指導方法の工夫などを検討している。

e f g h. 企業連携に関しては企業の方に授業として実習を担当してもらう事をメインに実施している。また、科によりばらつきがあるものの昨年に比べ、企業側と定期的にミーティングを行うなど外部関係者の評価を取り入れている。

i. 学生便覧で明記されており、それに従い運用している。

j. 科の目標とする資格対策はカリキュラムに適切な時間数の授業として組み込まれている。

k. 担当している業界および該当教科に精通している教員を配置している。

l m n. 職員の研修については最新技術習得のため、積極的に受講を推進している。希望があれば対応しているのが現状である。

## ② 課題・改善方策

a b c. 業界ニーズとしての教育目標レベルが高くなっているが、業界ニーズが必要とする目的レベルに到達可能な授業プログラムを検討する。シラバスについては、科目ごとに作成しているが、書式や表現方法にばらつきがあるので、今年度から統一したシラバスを使用している。今後は、各教員の力量によりシラバスの内容に差が生じているので、企業と連携し教員のための研修会などを実施したい。

d. 最新の技術情報などを取り入れるため、さらに企業と連携した教育カリキュラムなどを検討する。今後、I ソリューション科では、人工知能学会に参加し最新情報をもとにカリキュラムに反映させたい。

e f. 企業連携については今後、さらに積極的に進めていく。

g h. 各科ごとの評価方法にばらつきがあり、評価の考え方に開きがある。今後、連携企業から科ごとに評価に対するアドバイスを頂き、各講師に結果をフィードバックし、授業における指導方針を話し合うようにする。

l m n. 職員研修に関しては今後、組織として参加することを積極的に進めていく。また、企業連携をとり最先端の技術レベルの研修会にも参加したい。

## (4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
b. 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
c. 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

## ① 状況

a. クラス担任が中心となり個人面談で学生個々の状況を把握しながら就職指導を実施している。また、毎週木曜日には、希望する学生に対して就職面接担当教員が就職面接指導を実施している。

b. 各資格単位に対策科目がカリキュラムに組み込まれておりシラバスで資格取得のスケジュールが計画的に図られている。特に、舞台機構調整技能士検定2級合格者において、東北地方において専門学校生の合格者を輩出しているのは本校だけである。

c. クラス担任の個人面談を通して各学生の諸問題に臨機応変に対処している。ケースによっては、教頭が面接を行っている。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施している。

d e. 在校生については、把握できているが卒業生に関してはキャリア形成への効果を含め十分に把握できていない現状がある。

## ② 課題・改善方策

a. 就職に積極的でない学生や専門分野に適正がない学生対応が課題となり学生自身や保護者と話し合いながら進路を決めている。また、キャリアサポートセンターを中心に各科ごとの積極的な求人開拓が必要である。

b. スケジュール内で試験範囲が終了しない場合があるので補講等に対応している。

c. 担任以外に教頭のサポートを設けて対応している。また、精神的に問題を抱えている学生に関しては、専門のスクールカウンセラーの個人面談を実施し退学率の低減を図っている。

d e. 卒業生の対応が科ごとにばらつきがある。今後、卒業生とのネットワークを確立し状況を把握し意見を吸収していく必要がある。

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 進路就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
b. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
c. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
f. 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
g. 保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
h. 卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
j. 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 現状

- a. 進路（就職）担当及びキャリアサポートセンターから発信される情報を参考とし、クラス担任を中心とする支援体制を整備している。
- b. 学生相談については、クラス担任および教科担当教員との面談により対応している。
- c. 学生の経済面に対する支援制度として学園の奨学金制度や学費分割納入制度が整備されている。また、専門課程修学支援実証研究事業の研究対象校になっており、国から給付型の奨学金の援助を受けている。
- d. 学校保健法に基づき、毎年健康診断を実施している。
- e. 課外活動として、学園祭、音楽イベント、作品展、公演などを開催し支援している。
- f. 菅原学園提携の学生会館及び、学生マンションを必要に応じて紹介し快適な住環境の提供を支援している。
- g. 保護者には、出席状況を2か月単位、成績状況を前期・後期末、夏・冬休みの案内を休み直前に郵送している。また、学習面、生活面、進路に関して随時相談し連携している。
- h. 希望があれば卒業生の再就職時の求人情報の提供などを行っている。
- i. 関連企業の意見を取り入れ、各業界で実際に使用されている最新の機材・設備を整える事を目標としている。
- j. 高校との連携をとり情報処理分野(CG等)及び、声優分野の授業を実施し専門技術への関心を高める支援を行っている。

② 課題・改善方策

- a. キャリアサポートセンターを進路指導（就職）の統括部署としクラス担任と連携していく必要がある。
- b. 精神的な問題を抱えている学生が増加傾向にある。専門のスクールカウンセラーを配置し状況に応じて学生面談を実施している。今後、学生相談室など学生が気軽に相談できる場所を設けたい。
- c. 特になし。
- d. 体調不良の学生に対しては、市販薬で対応しているが、校内に保健室があり休む事ができる。
- e. 企業や地域団体との連携をとり関連技術の習得に活かせる取組を図る必要がある。
- f. 特になし。
- g. 学校の方針の説明や学校行事など学生を通して年間スケジュールの案内をお知らせしている。今後は、ホームページ等で知らしめる必要がある。
- h. 各科ごとの卒業後の集会などは開催しているが、今後、学校主催の同窓会を開催するか否か検討する必要がある。
- i. 予算の関係ですべて新しくする事が難しい。
- j. 高校側とのキャリア教育・職業教育の連携を増やして行く必要がある。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
b. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
c. 防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 状況

- a. 施設・設備に関しては年度毎に予算の中で見直しを行っている。各科単位に新設備の提案書を提出し学校全体の新設備の予算を把握し優先順位に従い整備している。
- b. インターンシップについては正規の授業に影響が出ないように考慮しながらケースバイケースで対応している。実習施設については順次、予算内で整備している。
- c. 防災時の指導マニュアルを整備し避難訓練を年1回実施している。飲料水の備蓄に関しては、オープンキャンパス時に配布する飲料水を非常用として転用できるようにしている。

② 課題・改善方策

- a. 学科の学生数により予算に偏りが出る。
- b. 企業とタイアップしインターンシップを正規の授業に取り入れているが、科ごとにばらつきがあるのでばらつきがないように検討したい。



c. 災害時の避難所として学校を提供するには不十分である。今後、地元、本町商店会振興組合及び本町新光町内と連携した対応を取りたい。

#### (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
b. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
c. 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

##### ① 状況

a. 入学相談課を中心に学校外の広報活動として進路ガイダンス、模擬授業、会場ガイダンスなどを実施している。学校内の広報活動としてはオープンキャンパス、学校見学会を行い適正に学生募集活動を行っている。

b. 学生募集活動の一環であるオープンキャンパスにおいて学生の制作した教育成果として（デザイン作品集、曲、ボイスサンプル、まんが、CG、ゲーム、プロデュースイベント）などの作品を紹介するとともに就職状況、資格取得状況も合わせて説明している。また、作品に関してはホームページでも公開している。その他、オープンキャンパス開催時に保護者説明会も実施している。

c. 学納金は、授業料、施設設備費、教材実習費などから構成され年度ごとに理事会で妥当な学納金を協議し、評議委員会に諮り理事会の承認により決定する。

##### ② 課題・改善方策

a b c. オープンキャンパスでの体験内容や説明方法を再検討し入学生数の増加を図る。

#### (8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
c. 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
d. 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

##### ① 状況

a b c d. 財務に関する情報は、HP上に情報公開している。

##### ② 課題・改善方策

a b c d. 今後も必要に応じてHP上に情報公開していく。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
b. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
c. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
d. 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 状況

- a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。
- b. 学園の規定集にて詳細に定められている。年度初めの講師会で個人情報の取り扱いについて説明している。個人情報に係わる廃棄物については職員室の個人情報廃棄箱を設け定期的にシュレッターにかけている。
- c. 自己評価に関しては実施しており、問題点の改善に努めている。
- d. HPに公開している。

② 課題・改善方策

- a b c d. 特になし。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
b. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
c. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 状況

- a. 宮城県高等学校文化連盟軽音楽専門部などをはじめ、外部団体と運営協力し、6Fライブシアターなどの学内施設を活用し社会貢献・地域貢献を行っている。また、地元本町商店街振興組合との交流も深く、本町夏まつり、本町ムーンライトマルシェ、小さな小さな展覧会などに協力している。
- b. ミュージックスタッフ科及び声優科は市民参加型のイベント（とっておきの音楽祭、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、青葉区民まつり、仙台ゴスペルフェスティバル）にボランティアとして参加している。

c. 仙台市が実施している東西線まちづくり事業助成制度を活用した人材育成スクール「卒業式&プロジェクト発表会」を開催した。

② 課題・改善方策

a. 特になし

b. 各科によりボランティア活動についてばらつきがある。今後、社会貢献・地域貢献に関するボランティアについては積極的に

c. 地域に対する公開講座の実施を積極的に開講したい。

(11) 国際交流

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 留学生の受け入れについて戦略を持って国際交流を行っているか	④	3	2	1
b. 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続きがとられているか	④	3	2	1
c. 学習成果が評価される取組を行っているか	④	3	2	1
d. 学内で適切な体制が整備されているか	④	3	2	1

① 状況

a. 本校の国際交流課と外国人留学生担当教員（科担任）が連携して、仙台市内の日本語学校を中心に定期的な情報交換を実施。出身国籍の変化・動向・ニーズをキャッチしながら戦略的な留学生の獲得・募集活動を行っている。

b. 留学生の受け入れは、取次申請の資格を有する2名の担当教職員が適正に行っている。在籍管理は、国際交流課と科担任が連携して、欠席者への連絡や指導および面談など、きめ細かく対応・実施している。

また、外国人留学生受け入れ校は、東京および仙台入国管理局への各種届出・報告（受入・離脱、在籍者報告、等）が義務づけられており「適切な届出・報告」が求められる。

さらに、外国人留学生受け入れ校として不法在留率が3%以下の「在籍管理が適切に行われていると認められる専修学校専門課程」に対して、仙台入国管理局より「適正校」としての選定を受けることとなるが、本校は「適正校」として選定をいただいている。

c. 学習成果として、取得資格・就職先・大学進学先、等を掲載した外国人留学生向けの入学案内書の作成・配付、および、ホームページに掲載している。

また、日々の学習成果を発表する場としてスピーチコンテスト（年2回：前期1回、後期：1回）を実施している。

d. 国際交流課と科担任が連携して留学生に対応しており、支援体制は十分整っていると考える。

## ② 課題・改善方策

- a. この5年間、ベトナムやネパールを中心とした非漢字圏からの外国人留学生が増加している。  
本学園留学生に対する教育理念として、幅広い国籍からの留学生を受け入れ、一層のグローバル化を打ち出していきたい。  
今後はバングラディシュ・スリランカ・ミャンマー、などの出身国籍留学生の獲得を意識した募集活動を展開したい。
- b. 現在の対応を継続させ、引き続き適正校として選定されるように努力したい。
- c. 非漢字圏国籍から入学してくる外国人留学生の特徴として、日本語能力が低い点が挙げられる。  
日常会話はある程度できるが、漢字の読み・書きを苦手としている割合が多い。  
本来、専門学校の教育・カリキュラムにおいては専門科目に特化した教育に取り組むべきところであるが、日本語能力の底上げを図るサポート科目も必須の現状である。  
ビジネス系の資格検定（ワード・エクセル・簿記検定など）受験以前の問題として、日本語能力の向上を図るためのカリキュラムや教材の修正に取り組んでいるところである。  
専門科目については、「読ませる、書かせる」を意図したオリジナルのワークシート型教材の開発・導入など、工夫し授業を行っている。  
また、外国人留学生と日本人学生との交流を視野に入れたプログラムも企画立案していきたい。
- d. 国際交流課と科担任が連携して留学生に対応しており、支援体制は十分整っていると考える。